

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>



心惹かれる対象がある、それは幸せなことです。

校長 丹羽正昇

夏休みが8月29日に明け、今日から9月です。9月と聞いて思い浮かぶものの一つに、中秋の名月があります。別名、十五夜。文部科学省唱歌で童謡の「うさぎ」の歌詞にも出てきますので、私たちには比較的なじみのあるものです。その中秋の名月、今年は、9月10日だそうです。子どもの頃、中秋の名月は満月だと思い込んでいました。しかし、必ずしもそうではないようです。国立天文台によれば、2001年～2030年までの30年間で、中秋の名月と満月が一致するのは11回。そのうち4回は朝や昼間で、夜空に輝く中秋の名月が見えるのは7回ようです。

さて、今月は心が惹かれることについてのお話です。冒頭、月の話から入りましたが、私は月に心惹かれているなあと思うときがあります。気が付くと月を眺めたり、写真に収めたりしています。常々私は、心惹かれる対象があるとよいと思っています。それはどうしてなのか。一緒に考えてみましょう。

私が月に心が惹かれるようになったきっかけは、アポロ計画です。大阪で開かれた万国博覧会に展示された月の石。小学生のとき、アルバムの中に、それと一緒に写った幼児の自分を発見しました。他の写真もある中で、なぜかその一枚に心惹かれたのです。月の石について調べてみると、人が月に行こうとした、もしくは行ったという計画があることを知りました。その計画の科学的な内容にも惹かれましたが、もっと惹かれたのは、人が月に行こうとしたという思いでした。どうして行こうとしたのか。そこに心惹かれたのです。

古来より世界中の人が月を眺め、様々な思いを巡らせてきました。人々は月の姿の中に、神話を思い描く、動物を発見する、自分の人生を振り返る、故郷を思い出すなど、その思いは多様でした。それらに共通しているのは、想像力や夢見る力です。いや、月に行こうと考えた人たちは、科学の進歩を単に実証しようとしたのだという反論があるかもしれません。たしかに、そう考えることもできます。しかしながら、私は、科学の進歩を夢見たからこそ、夢に一步でも近付きたくて、探究を重ねたのだ。心惹かれる対象があるからこそ、人は想像を豊かにし、努力を惜しまず探究を続けるのではないかと考えるようになりました。

先日、素敵な言葉に出会いました。この夏の第104回全国高等学校野球選手権大会で優勝した、仙台育英高校の須江監督の「想像力からくる優しさ」という言葉です。人は、想像力を豊かにすると優しくなれる。この言葉は大切にしたいと思いました。心惹かれる対象をもち、想像力豊かに過ごすことで、粘り強く努力し探究する、且つ人に寄り添う優しい人間になるのだとしたらどうでしょう。心惹かれる対象があるのは幸せなことかもしれません。

余談ですが……月の重力を計算した人がいます。

月の重力を馬力に換算すると、実に120京(1,200,000,000,000,000)馬力!これは、地球全体の海水量195兆トン、一日に二回動かすこととした際の数値です。このパワー、地球の自転にブレーキをかけ、一日の長さを毎日1億分の1秒ずつのばしているそうです。静かな雰囲気のある月に、実は凄まじいパワーがあるのだとすると、イメージと実際に大きなギャップを覚えます。ギャップが生じることで問題意識が生まれ、探究心がくすぐられるともいわれています。知らぬ間に、そんなギャップに人は心惹かれているのかもしれない。

※馬力:1馬力は、75kgの重量の物体を、1秒間に1m動かす力のことです。

